

## 献金について

札幌北部教会 牧師 久世そらち

### \*献金の意味

教会での献金は、ごりやくを願うおさいせんではありませんし、たんなる教会の会費でもありません。今日までの歩みの中で神から与えられてきたゆたかな恵みにこたえ、感謝して御前にさしだすものです。教会の宣教の働きは、こうした献金によって支えられています。わたしたちは、献金を通して、自分自身を神の福音の宣教のためにささげるのです。

聖書は「十分の一の献げもの」を教えています(創世記28:22 など)。聖書の時代の人々は、収入として与えられた収穫の十分の一を、しかも余った物ではなく初穂をささげました。つまり、収入から、まず神へのささげものを先に取り分けてささげたのです。いっぽう、「各自、不承不承ではなく、強制されてでもなく、こうしようと心に決めたとおりにしなさい。喜んで与える人を神は愛してくださるからです。」(コリントII9:7)とも勧められています。自分自身の信仰にもとづいて、どのように献げるべきか、祈って決断しましょう。

教会は、このように信仰の証しとして主のためにささげられる献金を、主のみわざのためにふさわしく用いるよう毎年の総会で教会の宣教の働きと予算を定めます。また逆に、そうした具体的な働きを覚えて祈り、自分の力に依りて進んで献金を献げることで、主に仕える信仰も養われるのです。

また、献金は、教会につながり教会を支える交わりのしるしです。事情で礼拝に長く出席できないときも、献金を送ることは教会につながっているこ

あか  
との証しとなります。

## \*礼拝献金

れいはい  
礼拝のときには、できるだけ始まる前に献金を用意しましょう。うけつけ ふくろ  
受付で袋を  
う と いっしゅうかん しゅ  
受け取り、一週間に主からいただいた恵みにふさわしい、せい いっぱい ささ  
ものを用意します。さくねんど きょうかいかいけい  
昨年度、教会会計のために「あとひとつのコイン」が呼び  
かけられました。

## \*月定献金

きょうかい はたら  
教会の働きは「すべてのことを適宜に、かつ秩序を正して行 うがよい」(コ  
リントⅡ 14:40)と勧められています。すす しゅ たく せんきょう はたら けいかくてき  
主から託された宣教の働きを計画的に  
てきせつ おこな  
適切に行 うために、まいとし きょうかいそうかい いちねんかん きょうかい はたら  
毎年の教会総会で一年間の教会の働きとそのための  
よきん さだ  
予算が定められます。きょうかいよきん ささ うら  
教会予算を支える裏づけとなるのが月定献金です。げっていけんきん けいかく  
計  
された教会の宣教の働きをどのように支えるかをかんが 考え、それぞれに信仰を  
しんこう  
もって決断した額を毎月ささげます。けつだん がく まいつき なんかげつぶん いちど  
何ヶ月分も一度にささげるのではなく、つき  
ごとにきょうかい のためにいの 祈ってささげましょう。

げっていけんきん ふくろ かいけい ようい ささ さい ふくろ ひづけ きんがく きにゆう  
月定献金の袋は会計で用意します。献げる際は、袋に日付・金額をご記入  
ください。れいはいけんきん とも  
礼拝献金と共にささげるか、あるいはかいけい ちよくせつ わた  
直接お渡しください。  
えんかくち ばあい きょうかい ゆうびんふりかえこうざ りよう  
遠隔地などの場合、教会の郵便振替口座を利用することもできます。

## \*自立連帯献金

にほん きょうかい おうべい きょうかい しきんえんじょ おお たよ  
かつて日本の教会は、欧米の教会からの資金援助に大きく頼っていました。  
がいこく えんじょ じりつ ねが つよ しえん ひつよう  
やがて、外国の援助から自立しようという願いは強くなりましたが、支援の必要  
ちい きょうかい じぶん ささ いしき つよ そだ  
な小さな教会を自分たちで支えようという意識はあまり強く育ちませんでし

た。このような<sup>しせい はんせい</sup>姿勢を反省して、<sup>がいこく えんじょ</sup>外国の援助から「<sup>じりつ</sup>自立」し、<sup>どうじ きょうかい たが</sup>同時に教会が互いに「<sup>れんたい</sup>連帯」して<sup>ささ あ</sup>支え合うために、<sup>ほっかいきょうく</sup>北海教区では<sup>しやぎほしょう</sup>謝儀保障などの<sup>ざいせいてき</sup>財政的なしくみを<sup>ととの</sup>整えてきました。現在、<sup>げんざい</sup>小規模教会を支える<sup>しょうきぼきょうかい</sup>謝儀保障費のために<sup>ささ</sup>約1200万円が<sup>しやぎほしょうひ</sup>用いられ、また<sup>やく まんえん</sup>その他教区活動一般のために<sup>もち</sup>約3700万円が<sup>たきょうくかつどういっばん</sup>必要とされています。これらを、<sup>きょうくそうかい</sup>教区総会での<sup>けつてい</sup>決定に従い、<sup>したが</sup>教区内の<sup>きょうくない</sup>諸教会で<sup>しよきょうかい</sup>分担しています。北部教会の<sup>ねんど</sup>2016年度の<sup>きょうくぶんたんきん</sup>教区分担金は<sup>やく まんえん</sup>約107万円でした。

北部教会では、こうした<sup>ほくぶきょうかい</sup>働きのための<sup>はたら</sup>献金を「<sup>けんきん</sup>自立連帯献金」として<sup>じりつれんたいけんきん</sup>献金として<sup>ささ</sup>献金しています。教区における<sup>きょうく</sup>支えあいのために、<sup>ささ</sup>毎月の一<sup>まいつき</sup>定額を<sup>いっぺい</sup>各自で<sup>かくじ</sup>決断して<sup>けつだん</sup>定めて<sup>さだ</sup>ますが、<sup>まいつき</sup>毎月ひとり<sup>へいきん</sup>平均<sup>えん</sup>1400円ほど<sup>ささ</sup>献げられれば<sup>もくひょうがく</sup>目標額が<sup>み</sup>満た<sup>げつ</sup>されます。月定<sup>ていけんきん</sup>献金と同じ<sup>おな</sup>袋<sup>ふくろ</sup>であわせて<sup>ささ</sup>お献げください。

## \*特別感謝献金

日々の<sup>ひび</sup>歩みの中で<sup>あゆ</sup>大きな<sup>なか</sup>恵み<sup>おほ</sup>を与えられた<sup>めぐ</sup>時、<sup>あた</sup>記念すべき<sup>とき</sup>時<sup>きねん</sup>などに<sup>とき</sup>すすんで<sup>けんきん</sup>献金を<sup>たんじょうび</sup>ささげます。誕生日・<sup>じゅせんきねん</sup>受洗記念・<sup>けつこんきねん</sup>結婚記念・<sup>しやうてんきねん</sup>召天記念など、<sup>じんせい</sup>人生の<sup>ふしめ</sup>節目を<sup>おぼ</sup>覚えるのは<sup>し</sup>よいこと<sup>さい</sup>です。とくに<sup>しやうがい</sup>死に際しては<sup>あゆ</sup>生涯の<sup>かんしや</sup>歩みを<sup>さいご</sup>感謝する<sup>さいご</sup>最後の<sup>ささ</sup>献げ<sup>そな</sup>ものが<sup>かんしや</sup>できる<sup>かんしや</sup>よう<sup>かんしや</sup>備えて<sup>かんしや</sup>おきましよう。また<sup>かんしや</sup>イースター、<sup>かんしや</sup>クリスマスの<sup>かんしや</sup>感謝<sup>かんしや</sup>献金<sup>かんしや</sup>のほか、<sup>かんしや</sup>夏期特別<sup>かんしや</sup>献金を<sup>かんしや</sup>よび<sup>かんしや</sup>かけて<sup>かんしや</sup>います。年間の<sup>ねんかん</sup>予定<sup>よてい</sup>にお覚<sup>おぼ</sup>えください。

## \*会堂建築献金

2008年度、<sup>ねんど</sup>私<sup>わたし</sup>たちの<sup>きょうかい</sup>教会は<sup>ながねん</sup>長年<sup>しんかいどう</sup>祈<sup>ぼくしかん</sup>って<sup>けんちく</sup>きた<sup>けんちく</sup>新会堂・<sup>けんちく</sup>牧師館<sup>けんちく</sup>を<sup>けんちく</sup>建築<sup>けんちく</sup>しました。<sup>しきん</sup>資金として<sup>か</sup>借り<sup>い</sup>入れた<sup>きょうかいざい</sup>教会債<sup>ざんきん</sup>(<sup>ざんきん</sup>残金<sup>ざんきん</sup>120万円)<sup>ざんきん</sup>および<sup>きょうく</sup>教区<sup>しやくにゆうきん</sup>からの<sup>ざんきん</sup>借入金<sup>ざんきん</sup>(<sup>ざんきん</sup>残金<sup>ざんきん</sup>200万円)<sup>ざんきん</sup>の<sup>ざんきん</sup>返済<sup>ざんきん</sup>が<sup>ざんきん</sup>課題<sup>ざんきん</sup>です。引<sup>ひきつづ</sup>続き<sup>かいどうけんちくけんきん</sup>会堂建築<sup>ささ</sup>献金<sup>せんよう</sup>をお<sup>せんよう</sup>献<sup>せんよう</sup>げ<sup>せんよう</sup>ください。専<sup>せんよう</sup>用の<sup>せんよう</sup>献<sup>せんよう</sup>金<sup>せんよう</sup>袋<sup>せんよう</sup>を<sup>せんよう</sup>配布<sup>せんよう</sup>していますので、<sup>せんよう</sup>月<sup>せんよう</sup>ごと<sup>せんよう</sup>に<sup>せんよう</sup>一定<sup>せんよう</sup>額<sup>せんよう</sup>を<sup>せんよう</sup>献<sup>せんよう</sup>げ<sup>せんよう</sup>る<sup>せんよう</sup>ほか、<sup>せんよう</sup>随<sup>せんよう</sup>時<sup>せんよう</sup>の<sup>せんよう</sup>献<sup>せんよう</sup>金<sup>せんよう</sup>にも<sup>せんよう</sup>ご<sup>せんよう</sup>利<sup>せんよう</sup>用<sup>せんよう</sup>ください。口<sup>こう</sup>座<sup>ざ</sup>振<sup>ふり</sup>込<sup>こ</sup>み<sup>りよう</sup>を<sup>りよう</sup>利<sup>りよう</sup>用<sup>りよう</sup>したい<sup>かた</sup>方は<sup>かいどうかんりいんかい</sup>会堂<sup>かいどう</sup>管理<sup>かんり</sup>委員<sup>いんかい</sup>会<sup>かい</sup>にご<sup>そうだん</sup>相<sup>そうだん</sup>談<sup>だん</sup>ください。

## \*地区宣教協力献金

ほっかいきょうく かくちく どくじ かつどう も れんたい つく  
北海教区の各地区では、それぞれ独自の活動を持ち、また連帯のしくみを作  
っています。札幌地区では諸教会が支え合うために「地区宣教協力献金」  
よ  
を呼びかけ、これにより2016年度は6教会に100万円を献げることができまし  
ねんど きょうかい まんえん ささ  
た。このために北部教会では独自の袋を作成して教会員に配布し、地区の  
ほくぶきょうかい どくじ ふくろ さくせい きょうかいいん はいふ ちく  
しよきょうかい おぼ つき ささ  
諸教会を覚えて月ごとに献げるようにしています。

## \*袋献金

きょうく はたら きんきゅう さいがいえんじよ きょうかい とくてい はたら  
教区のさまざまな働きや、緊急の災害援助のためなど、教会の特定の働  
きのために献金を募ることがあります。しばしばそのための献金袋が配られま  
けんきん つの けんきんぶくろ くぼ  
す。献金の趣旨は、袋に記されていたり掲示板に張り出されたりしていますの  
けんきん しゆし ふくろ する けいじばん は だ  
で、これらの課題のために祈り、その働きを支える献金に協力しましょう。  
かだい いの ばたらき ささ けんきん きょうりよく  
けんきん ふくろ い れいはいけんきん けんきんぶくろ  
献金は袋に入れ、礼拝献金といっしょにささげます。献金袋はそれぞれの  
しゅうほうだな うけつけ ようい  
週報棚または受付に用意されます。

## \*隠退教師を支える運動100円献金・謝恩日献金

にほん きょうだん いんたいきょうし ささ うんどう ほっかいきょうく はじ  
日本キリスト教団の「隠退教師を支える運動」は、北海教区から始まって  
ぜんこく ひろ うんどう せいかつほしょう じゅうぶん いんたいきょうし ささ まいつき  
全国に広がった運動です。生活保障の充分でない隠退教師を支えるため毎月  
ひとくち えん けんきん いちど ささ  
一口100円の献金をささげます。これも、一度にまとめて献げるよりも、たえず  
おぼ いの もと  
覚えて祈ることが求められています。

べつ きょうだんねんきんきょく がつ しゃおんび しゃおんびけんきん  
これとは別に、教団年金局からは11月の「謝恩日」にあわせ、「謝恩日献金」  
よ  
が呼びかけられています。教団の教師年金基金のために献げられます。  
きょうだん きょうしねんきんきん ささ

以上